

リスク対策 c o m 危機管理カンファレンス2016

平時から地域との連携を

BCP/危機管理の専門誌「リスク対策 c o m」はこのほど、東京都港区の東京コンファレンスセンター・品川で「危機管理カンファレンス2016」を開いた。同カンファレンスは今年で4回目の開催となる。今回のテーマは「BCPの発展と継承〜あらゆる危機に備えろ!」。

へのサービスを再開する。とともに、社員が安心して働くことができる環境をつくることを目指した。また、地域への貢献活動に力を入れ、現在も続けている。熊本地震後に有事対策などをとりまとめたものの、実際にマニユアルどおりに動くことは難しい。マニユアルが機能しない場合はその内容を改善していく」と話した。

取引先とはBCPポータルサイトを構築している。今後は、行政、パートナー企業、地域の顧客と一体となつて

がBCPを行い、事業が早期に復旧することで雇用が確保され、地域経済が復興する。平時から地域と連携し、訓練や話し



関係者多数が出席し、熱心に聴講した

スクサービスのシニアマネジャーである尾嶋博之氏が「グローバルBCMの構築〜国境を越えた事業継続力強化へ」と題して講演。企業の持続的成長のために海外拠点の

め、これを戦略として取り組むことで競争優位性を確保できる」と指摘した。

国境を越えた事業継続力強化へ

午前部の「熊本地震における企業の対応 BCP改善のポイント」を徹底検証をテーマとするパネルディスカッションでは、イオン・グループ

訓練を実施し、避難所にいち早く物資を供給できるようにする」と述べた。

モテレーターを務めた新新聞社リスク対策 c o m編集長の中澤幸介氏は「企業が地域で活動することがBCPの本質として求められる。企業

合いを継続することが重要」との考えを示した。午後の部では、有識者や実務家による全15の講演が行われた。この中で、デロイトトーマツリ

し、「経営資源に着目して、原因を問わず、被害状況に応じた対応が可能となる『結果事象』で検討するアプローチが有効」と強調した。

また、小ざく始めて大きく育てることがグローバルBCMの構築で重要との考えを示し、国境を越えた事業継続力強化に向けて、▽BCP(計画、Plan)作成からBCM(仕組み、Management)構築へのフォカス▽フレームワークの構築▽コミュニケーションの必要性が高まっていると説明した。